



明治三十四年七月

大槻文彦著

大野定子傳

大槻文彦



小出祭大人の選ま小不三園
 定子の歌集下未出版の草
 稿にありにか大正十二年
 九月一日大空火災と共に
 津岸北富坂下の天草を萬
 屋にて焼去せり



昭和6年12月10日寄
 大槻茂雄

大槻文庫

はしかき

不三園大野字子刀自石和歌の道もて世子にたれしが明は二十六年
 七月十八日三十三歳を身すかれぬ其遺詠の遂子を散逸せむ
 を思ひも切り後子存せむの心なり其詠草を具たらし歌の數二
 萬首子辭り世子傳へむとて思ひ大人柁園小出祭
子刀自が師あり井上文雄大人が許へ行きまじえられ刀自とて
 年ガソの志たしみもおてせし事それをも秀逸あり子擇子られよと
 請ひまうし、子六、ろよく受けひかれ二萬首子辭子を去る見
 らる古々集あらう千首とて五百首あまりぬまいて子
子文雄大人子の取られ四季雜の部の次第をみづから

ついでこれ恋の歌をえひくも入れられどさて成るを以集り
をありけるまのつたつき謝するあまりあり刀自の古きよしみ
捨てたまをまると~~田~~をためし地下に感泣をうむかて今年
を刀自が十五曲忘るまをれを其奉の手向ふもと余が年を櫛巻
とて世子出世ふともしたり刀自が姉^{あやめ}余が母^{はは}をれもより
明治四十年七月
大槻文彦

大野定子刀自累傳

定子自刀を大和の郡山藩柳澤屋の臣大野平馬源武笛の第五女
あり武笛を同藩士平尾平三源武昭の次子とて寛政九年七月
出で、同藩大野氏を継ぎ江戸藩所より番頭役まで勤め禄
二百五十石を賜り天保十三年七月廿六日死すを殺しぬ室と同
藩土三浦某右衛門の次女と一男五女を生めり長女を大和の高取
藩植村屋の臣柳澤其右衛門の次女と嫁し次女を津藩士を津其伍兵
衛と嫁し三女を廣島藩士明好流仙吉と嫁し妾一曾を藩士大
槻平次清宗(無名)と嫁し次男十一郎天保十二年十月二十
日死すを殺す
(如書又後が母)

定子刀自元天保二年八月廿二江戸幸物内ある藤野子生れ初の名
を尊と云ひき天保四年より弘化四年まで松代藩直田侯の奥
子勤めたり又武島強後同藩古船田治右衛門の次子清次郎武
直を養子として家を継がめ弘化四年十月刀自家に歸りて
武直と稱し嘉永三年三月男良吉郎を生みしは二年九月父
武直と安政二年十月廿六日卒せしが父武島の弟同藩
士牧井藤十郎が男孫左衛門利但が治男と嘉治や武政を以て家
督せしめ刀自女を和歌を學びしが萬延元年九月より田女
侯の醫井上文雄の養女とす蓋其道を攻め名を定むる
子と改め學漸く進みて諸産數家子出入りたり明徳以後を

慶應義塾西區千代田区本町三丁目三番地

家を成して子弟に和歌を教授す明徳四年九月武政郡山より二
十五歳を歿せしが藤所藩士詔田仁花の次子録三やを七女
野家と継がむ新井孫左衛門が女の生みしは所
分りて其子の録三は其子孫なりて弘化四年刀自復々木野家
有相傳村に六年東京府より小石川傳道院の川山堂子碑川武子校
を開けり三月刀自徴されて其二等授業生となり習字裁縫洋筆
讀書を教授す是れ女教師の嚆矢と云ふ十年二月五等准訓
導に任せられ七月より親の依り職務を免せられ十三年五月
更に學習院の裁縫教師を命せられ四年三月情子依り本職を解
任し十九年二月女用消息文二冊を著して刊行せり昔より消息

文のさし男女の姿を異にせしを移りゆく世にさう煩るべきをあらわ
 打接するべきわざりをも男女のかがをさしを趣意とてみやびを過
 きたる詞出づくしを漢法を取て人々を道子こそ通てを「き
 文とし可耐遊神下^{ちか}に^{ちか}おんさるく下されたくとし煩るべきま
 上^しとまきたるを有さふとして一種の文體を創せり廿五年七月
 録^郡二十五年七月^郡後せしかる刀自漢く入る大野家と相續せり
 刀自不二園と稱し文雄の衣鉢を継ぎ久しく獨之して和歌の
 門元を限り門人多く其業頗る行それちしが二十六年七月十日
 病みく東草下公傳屏所五十一^ふあゆの偽居りて逝せり廿六年三月
 リき麻布二本本あるに信守の葬りて法名を至心院貞興とす

昌とつけき大槻如電の妻の弟倉田能老の女ゆきをもち家を
 継がせしよゆき明治三十四年五月五日死^母其兄隈^國二^中をもち
 後を承けしむ高^子如電が家子^子家を承けり

はしがき

大和親の道とて世にたれしが

不二園大野定子刀自明は三十一^{七月十日}二十三^日を身まかれぬ其邊

詠の散逸せむを^{神事}物^事其^{神事}草を自見

み親の敷二萬首子能なり世に侍(むよさまををと思ひ)槍園小生お米

ぬしを刀自か師ある井上文雄大人が許(行きまじ)花て刀自とて年六

ろのまだしみ^{おこせ}し^{おこせ}あるを透^透逸^逸あるを擇^擇られよとま^まひま^{ひま})

し^しま^ま首^首を^をれ^れし^し古^古今^今集^集を^をら^ら千^千百^百首^首と^とを^を五^五百^百首^首指^指き^き物^物を^をれ

専^専ら^ら文^文雄^雄大^大人^人の^の自^自を^を取^取ら^ら四^四年^年を^を雜^雜の^の部^部の^の次^次を^をま^まし^しみ^みが^がか^から

つ^つて^てれ^れ窓^窓の^の敷^敷と^とを^を一^一ひ^ひと^と入^入れ^れを^をさ^さて^て成^成る^るは^は集^集を^をら^らす^す

よ^よし^しみ^み捨^捨て^てた^たま^まを^をと^と取^取ら^らず^ず地下^{地下}に^に或^或は^はを^をら^らか^かて^て今^今も^も刀^刀自^自

さためて

か十五回忌より常ねむ世々の手向と余が事摺巻とて世に出さ
としたり刀自が姊又余が母をれをり

明正四年七月

外姪 大槻文彦

余が佐治の類 佐治の類

大野定子刀自大和の郡山藩柳原侯の臣大野平馬源武富の
第五女すう武富の同藩士平辰平三源武昭の次子より出で大野氏
を継ぎ番頭役を勤め禄二百五十石 天保十三年七月廿六日
卒 室は同藩 長女を継ぎ 長女を継ぎ 長女を継ぎ

大野定子刀自大和の郡山藩柳原侯の臣大野平馬源武富の

第五女すう武富の同藩士平辰平三源武昭の次子より出で大野氏

を継ぎ番頭役を勤め禄二百五十石 天保十三年七月廿六日

卒 室は同藩 長女を継ぎ 長女を継ぎ 長女を継ぎ

大和の高取藩植村侯の臣都築其右衛門次女を嫁し次女を

嫁し三女を嫁し長女を嫁し

の臣明作源仙吉子嫁し安山次子源武富大権平次清三(聖化)子嫁

し次男土事(天保十三年三月二十日)と嫁せり

定子刀自大和の郡山藩柳原侯の臣大野平馬源武富の

第五女すう武富の同藩士平辰平三源武昭の次子より出で大野氏

を継ぎ番頭役を勤め禄二百五十石 天保十三年七月廿六日

卒 室は同藩 長女を継ぎ 長女を継ぎ 長女を継ぎ

大和の高取藩植村侯の臣都築其右衛門次女を嫁し次女を

嫁し三女を嫁し長女を嫁し

の臣明作源仙吉子嫁し安山次子源武富大権平次清三(聖化)子嫁

若くは
元が

明治二十一年十月廿五年三十一日殺せしむる父武島の子河野新井

藤十郎が^子左衛門利但の次男武島武島を以て家督を継ぎしめ

田安屋の^子藤井上文雄の長女とす

改め和親の^子進子諸侯方子出入

瑞子嫁せしが明治三十四年^育和親の^子進子

その後^カ武島武島山^カ殺せしむる^カ和親の^子進子

野公を相儀せり刀自文雄の衣鉢を継ぎし

廿二年七月十八日^カ武島武島山^カ殺せしむる^カ和親の^子進子

大抵^カ武島武島山^カ殺せしむる^カ和親の^子進子

年八月十八日死せしかむ其家隈三平を以て継がしむ

三月
き何れも我茶板長たり

明治二十二年東三豆村^カ岩川浩通院の^カ山山堂^カ碑川世我とてあを^カ刀自

徴^カ岩川世我^カとてあを^カ刀自^カとてあを^カ刀自

より^カ岩川世我^カとてあを^カ刀自^カとてあを^カ刀自

職^カ岩川世我^カとてあを^カ刀自^カとてあを^カ刀自

ヲ^カ岩川世我^カとてあを^カ刀自^カとてあを^カ刀自

男^カ岩川世我^カとてあを^カ刀自^カとてあを^カ刀自

女子^カ岩川世我^カとてあを^カ刀自^カとてあを^カ刀自

文の^カ岩川世我^カとてあを^カ刀自^カとてあを^カ刀自

大野定子刀自明は三十二年（三十二年）身まがられぬ刀自の妹元金が母をもて

刀自が幼集を廻りて（幼集）二万首あり世子付（むすこ）

さまを思ひ槍園小出銀次（銀次）とて刀自が井上文雄大人が許へ行きま

らされて刀自と二年あとの三たしみるし本をあらそき返るを（返）

百首とよと書ひまうしこふ肯えれり古々集より千首よりと五百首と

接き出（接き出）おら文雄大人があらる（あらる）これ自以四季（四季）紺部

の順房まをみつたついでえ遠く籠えひと入れ（入れ）刀自と地下（地下）

と感泣をらむ（感泣）今年も刀自が十五年回忌より（回忌）書れぬ（書れぬ）柳巻と

世子出（世子出）けいしとしたり（けいしとしたり）刀自（刀自）が母（母）をあらそき返る（返る）

昭和十六年五月十日

大槻茂雄



御麻八半 一月十日發行
御麻八半 一月五日印刷

文藝堂書局

大槻茂雄

大正十三年三月



大槻茂雄

不二園年譜

天保三年辛卯八月廿日生

郡山藩士大野平馬次郎第五女母同三浦氏

三年壬辰

四年癸巳

五年甲午

六年乙未

七年丙申

八年丁酉

九年戊戌

十年己亥

十一年庚子

天保十二年 十二月 辛丑 十一

十三年 壬寅 十二 七月廿六、父年馬死、二十四日清船回泊、在の次子清中、中、家、
松澤去、田候、真、年、上、八、勤、付、五、年、

十四年 卯辰 十三 松澤去、田候、真、年、上、八、勤、付、五、年、

弘化元年 辰巳 十四 松澤去、田候、真、年、上、八、勤、付、五、年、

二年 巳午 十五

三年 午未 十六

四年 未申 十七 三月、在、田、候、了、山、原、家、歸、り、清、中、と、結、婚、。

嘉永元年 申酉 十八

二年 酉戌 十九 男、長、女、中、と、結、婚、。

三年 戌亥 二十 男、長、女、中、と、結、婚、。

四年 辛丑 二十一

五年 壬子 二十二

六年 癸丑 二十三

安政元年 甲寅 二十四

二年 乙卯 二十五 十月廿二、清中、中、死、三、年、七、日、為、勤、也、建、家、の、由、男、長、女、中、と、結、婚、。

安政 三丙
三六

四年 丁
二七

五年 戊
二八

六年 己
二九

萬延 庚
三十
井上文雄ノ長女トシテ
聘送研究

文久 辛
三一

二年 壬
三二

三年 癸
三三

元治 甲
三四

慶應 乙
三五

慶應二所 三六

三年 卯 三七

明治 辰 三八

二年 巳 三九

三年 庚 四〇

九月 五津川氏三子等 陸奥為相 藤敏白録 三ノ其相ノ事
三月 陸奥ノ相 藤敏白録 三ノ其相ノ事

四年 辛 四一

十月 八日 井上之雄 及七十六

五年 壬 四二

六年 癸 四三

壬子年 陸奥學校ノ開ク 及七十九 二等授業 壬子年 陸奥學校 洋書 教授 及七十九
女教師 及七十九

七年 甲 四四

八年 乙 四五

明治九年 丙午 四六

十年 丁未 四七

二月壬午 准列等 七日拜履

十一 戊申 四八

十二 己酉 四九

十三 庚戌 五〇

五月辛酉 古院裁後 諸師

十四 辛巳 五一

二月壬午 古院裁後 諸師

十五 壬午 五二

十六 癸未 五三

十七 甲申 五四

十八 乙酉 五五

明治十九年
五月
女用消息文二冊考述

二十訂五七

二十一戊五八

二十二乙五九

二十三庚六〇

二四卯六一

二五辰六二

七月録中ニテ多クハ大野の事トナリ

二六巳六三

七月十八日致

大槻文庫

不二園大野定子日記書目 十七冊

大野の小草 慶応二年

萬延元年一月 思出草

萬延六文久元 うた合

文久二年 詠草小 明治四年

文久三年 詠草小 明治十年

慶応元年 詠草小 明治十四年

慶応三四年 大野定子傳 大槻文彦 明治四十二年

明治十一年 不二園年譜 大槻如電 大正十二年

安政六年 不二園歌選年小 大正十三年九月一日 燧矢

大槻文庫





